

「採血説明書(パートナーシップ案)」のご利用にあたって

医療の質・安全学会パートナーシッププログラム委員会では、医療の質・安全学会の2013年度テーマ別ワーキンググループの一つとして、「わかりやすく情報共有に有効な説明文書」を患者・市民・医療者とともに作成する活動を行うこととして、「採血」に関する説明書モデルづくりに取り組みました。東大病院の採血説明書をモデルの原案として、約50名の市民・患者からの感想や意見をいただき、臨床検査技師・看護師等の助言や意見を加えて、2013年11月に「採血説明書(案)」を作成しました。また、2014年1月にはホームページからこの「採血説明書(案)」について、医療の質・安全学会の会員等に呼びかけて、医療現場の皆さんからのご意見を収集しました。

自院で使いたい、参考にしたい等の声もいただき、医療の質・安全学会パートナーシッププログラムのホームページからダウンロードいただけるようにしました。以下の点についてご理解をいただいた上でご活用ください。

・本説明書はあくまでも、パートナーシッププログラムで作成した案（以下、パートナーシップ案）です。これをたたき台として、貴施設の状況に合うものにしてお使いください。たとえば、採血をする職種、患者確認のときに氏名のほかに何を言っていたのか、基準値表を置いてあるかどうか、採血後に診察を要した場合の費用の負担についてのルールなどは、医療機関ごとに異なると思われる。また、貴施設でこれまでに発生したインシデントなどから、独自にぜひ説明したい内容もあるかもしれません。施設内で検討いただき、貴施設の文責のもと、自由に語句を変更したり、文を付け加えたり省いたりしてください。

・「パートナーシップ案」の作成過程でいただいた医療者と、患者・市民からの主なご意見を別紙で掲載していますので内容の検討の参考としてください。

・印刷したものをラミネート加工して待合室などに置いておく、ポスターにして外来や採血室に貼る、持ち帰り資料として配布する、内容をいくつか分割して採血待合室のディスプレイで表示するなど、現場に合った方法でお使いください。

・利用はご自由ですが、今後の患者へのよりわかりやすい説明について考える上で、多くの医療機関の経験を共有したいと思います。ご利用いただいた方は、ホームページの入力フォームから、利用後アンケートにぜひご回答ください。また、参考のため、貴施設で運用を始められた「新説明書」をご提供いただける場合は、同じ入力フォームでご送付ください。

2014年3月

医療の質・安全学会
パートナーシッププログラム委員会
山内桂子・飯島久子・松浦知子